

木協通信

第88号
発行年月日
令和6年4月1日
日田市大字東有田
字新山2776-6
日田木材協同組合
TEL24-2167



★日田木材協同組合百年を語る

日清戦争後、日田市街を中心に福岡県や、県内各地への道路が急速に整備され始め、明治二十九年には札幌町から日田城内を経由して福岡県道に通ずる道路ができ、明治三十年ごろ有田及び西有田の道路が改修され、明治三十二年には札幌町から石松を経て北豆田間が相次いで改修されるなど、主な往還はほとんど荷車が通じるようになった。

他方、山間地域でもすでに小国里道が開通、大山路が明治二十七年、八年ごろ開通、さらに熊本県の隈府に通ずる道路が拡張されるなど急速に進展する陸路の整備と鉄道の開通によって、日田林業は大きく発展する時代を迎えるが、それでも当時の木材輸送の主幹はなお水運に頼っており、明治二十二年から二十四年迄の間に隈川岸から川下した舟数は二、五六七艘にして石数一六、八八一石であった。
〈次号へ続く〉

★GFP（グローバル産地づくり）事業

製品共販課 宮崎桂一

今年の1月にGFP（グローバル産地づくり推進）事業の一環として、北米へ出張してまいりましたのでご報告いたします。

行き先はカナダのバンクーバー（BC州）、アメリカのポートランド（オレゴン州）、シアトル（ワシントン州）の3都市。スケジュールは1月22日～1月27日（4泊6日）。日田木協からは宮崎と、日本製紙木材の婿山シニアマネージャー、富岡リーダーの3名で渡米しました。

●1日目（22日）バンクーバー空港到着後、MECHELMITTEN氏と昼食後H社へ訪問。この会社は、アメリカ向けの窓口の会社で既に取引を行っており、カナダ、アメリカのマーケット調査を実施。

●2日目（23日）早朝よりポートランド（オレゴン州）に移動し、O社とV社を訪問。

O社は米松や米ツガ、ベイシギをメインに取り扱っている加工業者。社員は120名程度。原板や半製品から無節の1×4ワイダーパ



ネルを製造しており、付加価値の高い製品を製造販売している。

V社はかなり以前より日本向けの輸出業者で現在は輸入中心。現状では日本杉のフェンスとデッキ材の取り扱いがメインです。ホームデポ向けの販売を行っているが直販ではなく間に数社挟んでいる。

●3日目（24日）T社訪問。

昨年より外構材の取引を開始しました。現状はタコマ港揚げでコロラド州のデンバー所在の同社子会社に販売しているが、テキサス州の拠点も開設予定。ロス揚げのトライアルも検討中で今後の数量増に期待しています。



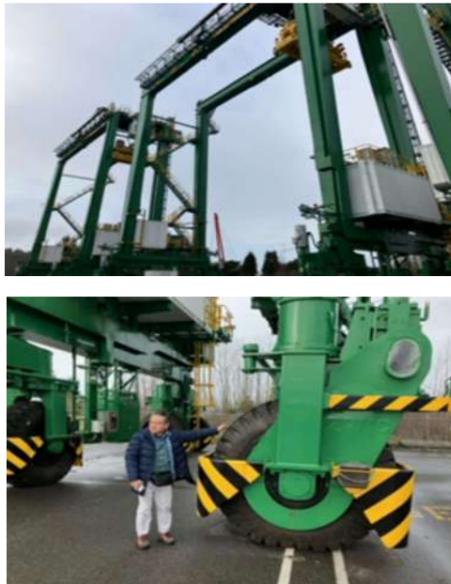
●4日目（25日）シアトルに移動後、H社とランチミーティング。日系の木材ブローカーで米国向け木材製品の販売を手掛けている。過去には日本や中国に製品を輸出していたこともあったが、現在はミシガン州、オレゴン州への販売がメインとなっている。日本の国産材に関しては、杉フェンス他、桧ラミナにも興味を持ち、集成材、貯水タンク用の資材などをワークしている。今年の5～6月に日本への旅行を計画しており、来組予定。



米国シアトル港を視察。

CLEAR FREIGHT社が案内役で、(株)三協グループで米国に拠点を数か所保有している。米国シアトル港は、近隣のタコマ港とパーナーシップによる港湾運営をしており、両港の貿易相手国は180カ国。コロナ収束後、他の港では取扱量を落とす中、2021年には過去最高の700億ドルの総貨物扱い量となった。

木材の大消費地に近く利便性の高い港を活用することで、国産材製品の拡販を図っていく。コンテナ荷下ろし後は、そのまま鉄道レールに直結しており、内陸運送にも最適米国北部、中部などへの拡販も期待できる。



I社。シアトルに拠点を置く木材の小規模販売業者。

ベイシギ（パネリングとサイディングなど）の取り扱いがメイン。フィンガージョイントの板材、集成の角材、板材塗装品（無垢、集成）長材など品揃えが豊富。かなり一般のエンドユーザーに近い小規模な販売工務店。日本産の製材品取り扱いに前向きだがコンテナ単位での購入が出来ず既存販売先へ当販売先を紹介し販売につなげる。



THE HOME DEPOT (ホームデポ) アメリカ最大のホームセンターを視察。



アメリカジョージア州に本社を置く住宅リフォーム・建設資材・サービスの小売チェーン店です。

● 5日目 (26日) 12:20シアトル発
● 6日目 (27日) 16:35東京成田着。

米国では、金利の低下に伴い住宅着工数が微増、木材需要、DIY需要、フェンス材需要が増加、米杉の需要も少しずつ増え始めたことで、日本産杉の板材、外構材にも引合いが戻ってきており、7〜8月位までは一定の需要が見込める。今後は、米杉の供給力に限りが見えてきていることから、日本杉製材品の需要の拡大が更に期待出来る。日本杉の認知度も広がりを見せており、積極的に拡販方法の模索を進める。

今回、北米出張という貴重な経験をさせて頂き、関係各所の皆様に感謝いたします。また、日本製紙木材のお二人のおかげで計23時間のフライトも時差ボケもなく非常に楽しい北米出張となりました。ありがとうございました。

★日田林工林業科の新生入生を支援

日田地域は古くから林業・木材産業の町として栄え、地域経済を支えてきました。ところが、平成3年の大型台風により森林が甚大な被害を受けるとともに、木材価格が暴落し、若い方が林業・木材産業に関心を持たなくなりました。

このようなこともあり、日田林工の林業科を受験する中学生が減少しています。ご案内のとおり、森林は木材を供給するのみならず、美味しい空気やきれいな水の供給、地球温暖化の防止に大きく貢献しています。この豊かな森林を、後世に引き継ぐためには、適正な森林の管理と、木材の

有効利用は欠かせません。このため若者に感心を持ってもらうため、働きがいと、誇れる職場を提供するとともに、志のある人材を確保するため、日田林工林業科新生入生への支援を通じて林業科志願者数を増加させ、日田地域の林業・木材産業の発展に寄与することを目的として、林業科の生徒を支援することとなりました。



【日田林工にて 生徒・保護者へ説明】

☆お知らせ
○令和六年度 木づかい促進事業

令和6年度も木づかい促進事業が継続されます。

日田市内及び近郊地域で、木造住宅の新築・リフォームを行う施主に対して、日田材・日田家具を支給することにより、木造住宅の建設・リフォームの実施意欲を高めるとともに、日田材の良さをPRし木材の需要拡大を推進する。また、豪雨災害による建て替えや、修繕に対し復旧の一助とする。

新築は木材の樹種別使用量により補助が加算されますので、木材明細書の作成にあたり、樹種別に材積の計を記載していただければ幸いです。また、新築に使用する材の含水率は20パーセント以下と規定されていますので、よろしくお願いたします。

- 新築 75棟 20万円分/棟
- (木材の使用量等に応じて加算があります)
- リフォーム 160棟 15万円分/棟
- 災害立て替え 10棟 45万円分/棟
- 災害修繕 30棟 20万円分/棟

○能登半島地震の災害支援について

ご案内のとおり、今年の元旦に能登半島を大きな地震が襲いました。今でも、断水や通電していない地域があり、能登の方は大変なご苦勞をされておられます。

各団体からの要請もあり、当組合としても微力ではありますが支援を行いましたのでご報告します。大分県木材協同組合連合会に50万円、日田商工会議所に30万円、大分県中小企業団体中央会に20万円、合計100万円を各団体を通じて、被災者に届けました。

○日田川開き大花火大会の参加について

昨年この大会に参加し、市民の方からとても良かったとの声をいただきました。

木材産業のPRを兼ねて花火を上げることは、観光客も誘致でき日田を盛り上げることに、一役買ったのではないかと思います。

本年度も日田市から参加の依頼がありましたので、役員会で協議し参加することと致しました。

本年は5月25日(土)26日(日)に開催の予定です。昨年度は日曜日に打ち上げましたので、本年度は土曜日に上げるよう日田まつり振興会にお願いしています。皆様のご観覧を願います。



○カンナ掛け加工ラインの搬送装置の導入について

今年2月から国の補助金をいただき、プレーナーの改修工事に取りかかっています。これまでは、自力で製品を投入しており、特に梁・桁の生材は重量もあり大変でした。この度、搬送装置を導入することにより、作業の軽減や効率化が図られます。装置の導入により、委託量を増やして頂けるという組合員もおられますが、より多くの組合員の皆様にもご利用をよろしく願います。ある程度の量がコンスタントに入ってくれば、委託料の低減を行うことも考えられます。

